

痙性の客観的評価

痙性とその統制は多くの臨床医学上の問題のひとつである。諸々の方法が痙性の緩和に利用されている。理学療法、筋弛緩剤、リゾートミー、フェノールブロック、腱の圧迫 etc.

近年になり痙性の客観的判定となる基準の必要性が強調されだした。

客観的評価法は仕事量の測定と反応性を見ようとするものの両者に分けられる。前者は歩行時間、簡単な仕事 etc で表わされる。

後者には三つの研究法がとられている。

(1) 電気刺激によるもの

Campbell と Green は M 波 H 波の相互の関係の記録化で痙性の評価をしようとした。しかし技術が難しく説明も困難である。

(2) 腱反射の誘発によるもの

Spring-loaded-Hammer を用い Ankle Reflex を誘発しカメラでとらえることで Erdman と Heather は痙

性を評価しようとした。また Leavitt と Beasley による膝蓋腱反射を利用した方法。

(3) 関節運動による方法

Carter と Gustafson による痙性下肢の屈曲伸展にテンションメーターと徒手牽引を利用した方法。Timberlake による痙性下肢筋を伸張する抵抗の量による評価法。

また “Rotational Joint Apparatus” と呼ばれる器械を用いた方法などがなされた。その他 Webster, Norton, Colleagues etc.

しかし、いまだ決定的な評価の基準となる方法は発見されていない。さらに根本的な問題として感情的、身体的反応の個人差による痙性の著しい変化について問題が残されている。

Huge C. Burny : Objective measurement of spasticity. Develop. Med. Child. Neurol. 1972.

(神奈川リハセンター、理学療法士 加藤祝也)

肥満症の運動と体重減少

肥満症患者の心疾患、内分泌機能の異常がなく入院治療中の 12 名を選び、社会歴の面接、心身の評価後始められた。食事療法は流動食 1,000~1,500 カロリー摂り 1 日 2~3 ポンド位体重減少するよう処方され、内科とリハビリ部門の双方からアプローチした。

心電図モニターは RKG-100 telemetric battery radio recording system ink writer をアタッチした。電極は胸骨柄の上と中腋窩線で第 5 肋骨上 (広背筋の前部と前鋸筋の第 5 肋骨上) に取付ける。ペストは皮膚のケアを考えて Beck mansliver 塩化物を用い、脈拍、呼吸数も同時に評価を行った。

運動負荷はトレッドミルの傾斜角度とスピードによって調整し phase が 120~140/minut にコントロールして一週間ごとに変えた。又その後マット運動 (Back lying ①両膝屈曲足部を着床、上肢伸展挙上、おきあがりて手を膝に触れる。2 分間くりかえす。②手足投げ出し X 姿勢同側の手と足を swing して真中で触れる。反対側も合せ 2 分間、③ブリッジ 1 分間、開脚坐位④左手で右足指に触れる。反対側も 2 分間、長坐位⑤プッシュアップ 2 分間くりかえす。⑥上肢側方挙上両上肢で小さな円を描

くのを 2 分間、prone position ①上体そらしと両下肢の伸展挙上を交互に 2 分間くり返す) トレッドミルとマットのインターバルは 5, 4, 4 分間に各 1 分間の休息。記録は運動前 45 秒、運動後 45 秒、運動中も行なわれた。

結果、女性 A, 22 週間で体重 117~87kg 仕事量 2,718~15,221 ジュール、男性 B, 22 週間で体重 137~89 kg 仕事量約 9,600~10,800 ジュール、女性 C, 28 週間で体重約 123~84 kg 仕事量約 2,600~9,100 ジュール、グループ訓練の患者も仕事量、体重減少の両者共に効果があった。筋力も 4~5 に変化、最初に上肢と下肢を比較した時上肢は弱かったが途中より殆ど差がなくなった。また腹部の皮下脂肪も減少効果があった。

肥満症患者は心理的にも難しく個々の性格をよく把握してコントロールする必要がある。

Margaret M. Kenrick, Michael F. Ball, and John J. Canary : Exercise and Weight Reduction in Obesity. Archives of Physical Medicine and Rehabilitation, 53 (7) 323-327, 1972.

(東京都養育院付属病院リハビリテーション部

理学療法士 竹谷春逸)